

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 23 章 1～15 節>

①イエス様の教えに学ぶ箇所。しかし、律法主義者にならないように。

23 章は、律法学者やファリサイ派の人々に対してなされたイエス様の批判が集められており、どういう姿が良くてどういう姿が悪いか、イエス様の教えがよく学べる箇所です。しかし、それは同時に、私たちが新たな律法主義者にならないように気をつけないといけないことも教えられます。あるべき正しい姿を知らされた者は、その姿に適っているかどうかという目で他人を見るようになりやすいからです。これを避けるにはどうしたらいいのでしょうか？ その教えから与えられる福音を考えるとだと思います。

②1-4 節：教えは正しいが、行いが問題 まさに私たち自身の姿！

「モーセの座に着いている」(2)とは、十戒をはじめとする旧約聖書の教えを教えているということです。よって、「彼らの教えは正しい。しかし、言うことは立派だが行動が伴っていない」とイエス様は批判されているのです。私たちにとっても耳の痛い言葉ではないでしょうか。「よし、行動も正しくしよう」と思って取り組むのは悪くないのですが、それがなかなか難しいこともまた知らされていきます。そしてその時に知らされるのです、「正しくあろうと努めてもそうはなり得ない私。こんな私のためにイエス様は十字架にかかって死んで下さったのだ」と。ただあるべき正しい姿を教えられるだけではなく、「赦されて、生かされている」、このことを深く教えられることが恵み、福音なのです！

③5-12 節：人の目が気になる？ 世間の目でなく、神の目を！

日本では社会を「世間」という独特な表現で表します。そして「世間の目」を気にする独特な倫理観を持っています。それが悪いとは一概に言えないのですが、世間の目を気にするあまり本当に正しい行動が取れなくなったり、「体裁を取り繕う」ことがあります。イエス様は 5 節以下で、それとは違うあり方を示されました。すなわち、真に父と敬うべきお方は唯一の神様のみ。そして、その神様を示す真の教師も唯一人イエス・キリストのみ、これに聞けと。そして、そのお方が示された姿こそ、仕え、へりくだる姿であったのです(11-12)。世間の目ではなく、神様の目を気にして生きるようになる時に、真の解放が訪れるのです！